

1 達成状況と課題

基本的施策1 スポーツを「する」環境づくり

市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも、安全にスポーツに親しむことができるよう（公財）盛岡市スポーツ協会（以下「市スポーツ協会」という）、盛岡市スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ等のスポーツ団体等と連携し、スポーツ活動を推進しました。また、ユニバーサルデザインの考え方に基づく施設利用環境の改善とともに、適切な配置計画に基づく施設の改修や整備を行います。

成果指標

指標：成人の週1回以上のスポーツ実施率*

目指す方向	平成23年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↗	28.1%	45.3%	44.6%	44.1%	46.2%	65.0%	未達

指標：成人肥満者（BMI*25以上）の割合（40歳以上）

目指す方向	区分	平成23年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↘	男性	31.9%	35.1%	35.6%	37.1%	37.1%	28.0%未満*	未達
	女性	23.4%	23.9%	25.2%	25.2%	24.9%	19.0%未満*	未達

評価

- ・基本施策である「ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進」に盛り込んだ施策は、概ね実施しました。成果指標である成人の週1回以上のスポーツ実施率は、増加傾向にはありますが、全国平均（56.4%）を下回っている状況で、目標とした65.0%の達成は困難な状況です。
- ・40歳以上の肥満者（BMI 25以上）の割合については、減少を目指していますが、男性は増加傾向、女性は横ばいです。全国平均（男性35.7%、女性23.0%）を上回っている状況で、目標とした数値（男性28.0%未満、女性19.0%未満）の達成は困難な状況です。

課題

- ・成果指標である「成人のスポーツ実施率」は、全国平均（56.4%）を下回り、目標の達成が困難な状況であることから、継続してスポーツに親しみ、スポーツにアクセスしやすい環境づくりを進める必要があります。また、令和2年度（2020年度）に作

* 用語解説 P51 参照

成した「アクションプラン」において、ウォーキングを核とした取組を進めており、健康づくりアプリ「^{モリ}MORI-WALKER^{ウォーカー}」（以下「モリウォーカー」という。）を令和4年（2022年）9月にリリースしました。スポーツ実施率の向上のために、モリウォーカーを活用して今後も継続して取り組む必要があります。

- ・スポーツ庁は、中学校の休日の運動部活動の地域移行について、令和5年度（2023年度）から取り組むこととする方針を打ち出していることから、各スポーツ団体や市教育委員会と連携し、地域移行に向けた取組を行う必要があります。

ア ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進

（ア）子どもたちのスポーツ推進

施策1 スポーツを始めたくなるきっかけづくり

- ▶「もりおかこどもスポーツクラブ*」については、市内の小学3・4年生を対象にさまざまなスポーツに触れることで運動能力の向上を目指す事業を実施しました。
- ▶プロスポーツチームの試合や全国大会等の誘致については、テニス国別対抗戦デビスカップやRWC2019、東京2020、クライミングワールドカップ2022の大規模大会の機会を活用し、ラグビーや水球、スポーツクライミングなど世界レベルのプレーに触れる機会の提供を行いました。また、プロスポーツの無料観戦の実施や各種全国大会等の開催等を支援しました。

〔評価・課題〕

- ・きっかけづくりとして、さまざまなスポーツに触れることができる「もりおかこどもスポーツクラブ」は、引き続き実施していく必要があります。
- ・スポーツを見る機会を提供し、子どもたちにプロスポーツ選手へのあこがれや感動の共有など、スポーツを始めるきっかけづくりを継続する必要があります。

施策2 スポーツに親しむ機会の提供

- ▶スポーツ・レクリエーション活動への支援については、市スポーツ推進委員協議会と連携し、指導者を派遣しました。
- ▶総合型地域スポーツクラブが実施する教室等に対しては、平成25年度（2013年度）から共催等の支援を行っているほか、イベントの周知等に協力しました。
- ▶スポーツ少年団員募集への協力については、毎年度初頭に団員募集のために市内全小学生にチラシを配布し、周知に努めました。

〔評価・課題〕

- ・子ども会やPTA等が行うスポーツ・レクリエーション行事について、指導者の派遣だけではなく、企画段階でスポーツに誘導できるような方策が必要です。
- ・総合型地域スポーツクラブが実施する事業への共催・後援については、今後も継続して実施します。
- ・スポーツ少年団の加入人数は、平成20年度（2008年度）の3,926人、競技種目は平成27（2015）～29年度（2017年度）の36種目がピークとなっており、以後、減少

* 用語解説 P51 参照

傾向にあります。今後、中学校の運動部活動の地域移行もあることから、スポーツ少年団員募集への協力を継続していく必要があります。

施策3 次世代体力・運動能力向上プロジェクトの実践

- ▶小学生の動きづくり事業については、平成29年度（2017年度）から令和2年度（2020年度）まで、市内全小学校でSAQトレーニング*の巡回指導を実施しました。協力を得られた学校では週1回15分以上のトレーニングに取り組んでいます。
- ▶スポーツ医・科学勉強会の開催については、スポーツ協会に補助金を交付し、勉強会を年2回開催。医学的エビデンスに基づくスポーツ指導への取組を実施しました。

〔評価・課題〕

- ・小学生の動きづくり事業としてのSAQトレーニングは、市内全小学校の協力のもと、今後も継続して実施する必要があります。
- ・科学的な根拠に基づくスポーツ指導をより浸透させるため、今後も小学生からの動きづくりや医・科学勉強会を継続して実施する必要があります。

施策4 保護者への意識づけや参加機会の提供

- ▶市民体育大会等、各種スポーツ大会・教室の開催については、市スポーツ協会と連携し、盛岡市民体育大会や各種大会等を開催しました。
- ▶保護者へのスポーツに関する理解を深める場として「盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」、「啄木の里ふれあいマラソン」、「いわて盛岡シティマラソン」を開催し、スポーツ機会の提供を行うとともに地域の活性化を推進しました。

〔評価・課題〕

- ・市民のスポーツ活動の機会提供として、各種大会やイベント等を開催しました。特に、令和元年度（2019年度）に開催した「いわて盛岡シティマラソン」は、スポーツイベントによる交流人口の拡大、地域の活性化に寄与しました。今後もスポーツ活動の機会提供は、継続して行う必要があります。

施策5 教育現場におけるスポーツ活動の充実

- ▶小・中学校体育連盟への運営費については、市教育委員会で助成を実施しました。
- ▶教育課程における体育活動については、市立総合プール及び市市民運動公園B&G海洋センタープールを一部の学校の授業での使用を認めるなど、市教育委員会と連携しスポーツ活動の充実に努めました。また、小学校体育連盟等が主催する大会においては、使用料を免除し活動しやすい環境を整えました。
- ▶岩手県中学校総合体育大会への派遣費用の助成については、市教育委員会で実施しました。
- ▶総合型地域スポーツクラブ等の地域の指導者を活用した部活動の推進については、令和4年度（2022年度）に総合型地域スポーツクラブ「いーはとーぶスポーツクラ

* 用語解説 P51 参照

ブ」が市民協働推進事業を活用し、中学校の部活動に指導者を派遣し、運動部活動の地域移行を見据えた取組を行いました。

〔評価・課題〕

- ・スポーツ庁は、中学校の休日の運動部活動の地域移行を進める方針を打ち出し、令和5年度（2023年度）から取り組む方針を示しています。地域移行は、指導者の育成・確保、活動場所、活動経費、用具等の課題が指摘されており、今後、市教育委員会や各関係機関と協議しながら、円滑な地域移行ができるよう進めます。

（イ）働く世代のスポーツ推進

施策1 スポーツに親しむ機会の提供

- ▶学校体育施設開放については、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の影響により使用できなかった期間もありましたが、令和3年度（2021年度）は62校109施設で実施しました。
- ▶夜間や休日のスポーツ教室については、市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ等と連携して実施したほか、各団体が開催するスポーツ教室等の情報を市広報紙や市ホームページを利用して周知を図りました。

〔評価・課題〕

- ・学校体育施設の開放は、地域のスポーツ推進に必要であり、継続した取組が必要です。また、手続や予約の方法等、より多くの人活用できるような仕組みづくりが必要です。
- ・夜間や休日のスポーツ教室は、働く世代がスポーツに親しむ機会として必要であることから、今後も継続して実施するほか、施設を利用しないスポーツ活動機会を提供するため、モリウォーカーの周知を図る必要があります。

施策2 スポーツに取り組むための意識啓発

- ▶市民体カテストについては、国民（市民）の体力・運動能力の基礎資料を得ること、働く世代に体力測定やスポーツをする機会を提供することを目的に年2回開催しました。
- ▶市ホームページを活用したスポーツカレンダーの掲載については、年間のスポーツ行事予定表を年1回掲載しているほか、市広報紙に掲載したスポーツイベント等を、市ホームページのイベントカレンダーに掲載しました。

〔評価・課題〕

- ・商工会議所等との連携は、令和4年度（2022年度）にモリウォーカーを開発・リリースし、気軽に取り組めるスポーツとしてウォーキングを推進するほか、盛岡Value City(株)の地域電子マネー「MORIO-Pay」（以下「モリオペイ」という。）と連携したインセンティブの付与などを実施しており、更なる周知を展開する必要があります。
- ・スポーツに取り組むきっかけとなる市民体カテストは継続して実施しますが、参加者が増えるような工夫が必要です。
- ・これまでの市広報紙と市ホームページが連動した情報提供を継続します。

施策3 スポーツを通じた健康づくり

- ▶ 玄米ニギニギ体操*の普及促進については、新型コロナ感染予防の観点から現在は実施していませんが、長寿社会課の介護予防教室や健康増進課の健康づくり教室が継続して実施されています。
- ▶ 「もりおか健康ウォーク」や「市民総参加スポーツの集い」を開催し、市民の健康づくりやさまざまなスポーツに触れる機会を提供しました。
- ▶ 「盛岡市のウォーキングマップ」の周知拡大については、市ホームページ内で「盛岡健康づくりまとめ」サイトを作り、ウォーキングマップにアクセスしやすい環境を整えたほか、モリウォーカーにおいても同マップを活用しました。
- ▶ 町内会等が実施するスポーツ活動への参加促進については、スポーツ推進委員を派遣し、ニュースポーツ等の指導を行いました。

〔評価・課題〕

- ・関係各課が実施する各種健康教室と連携して、運動する機会の提供を継続します。
- ・「スポーツの集い」は、新型コロナ流行前までは参加者が増加しており、今後もスポーツに触れる機会の提供のため、継続して実施するとともに、さらに多くの市民が参加できるよう周知を行っていく必要があります。
- ・モリウォーカーを活用しながら、ウォーキングマップの周知や各種ウォーキングイベントの開催を継続して実施する必要があります。
- ・町内会等が実施するスポーツ活動に、指導者の派遣を行いました。指導者の派遣だけでなく、企画段階でスポーツに誘導できるような方策が必要です。

（ウ）高齢者のスポーツ推進

施策1 無理なくスポーツに親しむ機会の提供

- ▶ 高齢者スポーツ支援プログラムの作成はできませんでしたが、高齢者保健福祉計画等において介護予防の強化が掲げられ、介護予防教室等が実施されました。

〔評価・課題〕

- ・関係課等にスポーツに関する情報提供を行うことで、効率的に施策が実施できるよう連携を強化します。

施策2 スポーツに取り組むための意識啓発

- ▶ プロスポーツの試合や全国大会等の観戦への支援については、東京2020などのメガイベントに連動し、盛岡では観戦する機会の少ない世界トップレベルの選手による親善試合を開催したほか、地元プロスポーツチームのホームゲームの無料観戦などの実施により、スポーツに親しむ機会の提供を行いました。

〔評価・課題〕

- ・市民体力テストは、継続する必要がありますが、64歳以上の参加者が少ないことから、周知方法について検討が必要です。

* 用語解説 P51 参照

- ・プロスポーツチーム等の試合観戦の機会の提供は、スポーツのすそ野を広げるとともに、感動・一体感の共有等を提供する機会であることから、引き続き取り組んでいく必要があります。

施策3 スポーツを通じた生きがいづくり

- ▶「市老人スポーツ祭典」や「市ニュースポーツ講習・交流会」等の開催については、いずれも長寿社会課所管で実施しました。また、スポーツ推進委員を派遣し、ニュースポーツ等の指導を行いました。
- ▶太極拳教室等の健康増進教室の開催については、介護予防の太極拳教室、ヨガ教室を長寿社会課所管で実施しています。
- ▶「市スポーツ・レクリエーション大会」については、例年3月に開催し約150人程度が参加していましたが、令和元年度（2019年度）、2年度（2020年度）、3年度（2021年度）は新型コロナの影響で中止しました。
- ▶「はなまるシニア筋力アップ教室」等の介護予防教室の参加促進による健康寿命の延伸については、元気はなまる筋力アップ教室として長寿社会課所管で実施しています。

〔評価・課題〕

- ・健康寿命を延ばすために、スポーツの習慣化に向けウォーキングを中心に周知を図るほか、関係各課の教室等及びスポーツ推進委員協議会と連携し、高齢者が自身の体力に合わせ気軽にスポーツに親しむきっかけづくりを推進します。

Ⅱ (I) 障がい者のスポーツ推進

施策1 気軽にスポーツに親しむ機会の提供

- ▶「市障がい者スポーツ大会」や「車いすバスケットボール教室」等の開催については、盛岡市障がい者スポーツ大会実行委員会及び県障がい者スポーツ協会が主催し、各種大会や教室が実施されました。

施策2 健常者との交流の促進

- ▶市民体育大会でハンディ部門を設けるなど同一の大会に参加できる運営をしました。また、盛岡・北上川ゴムボート川下り大会や啄木の里ふれあいマラソン、いわて盛岡シティマラソンにおいても、障がい者が自分の能力に応じて参加できる大会として開催しました。

施策3 障がい者のスポーツへのニーズの把握

- ▶障がい者のスポーツ活動の状況調査・研究については、市の障がい者福祉計画において、状況調査を実施しました。
- ▶他都市における障がい者のスポーツ教室や大会等の実施状況の把握については、実施できていません。

〔評価・課題〕

- ・障がい者のスポーツ実施率の向上を進めるために、関係課や県障がい者スポーツ協会等と連携してスポーツ機会の提供をする必要があります。

（オ）生涯にわたるスポーツ推進

施策1 スポーツに親しむ機会の提供

- ▶健康教育としてのウォーキング教室の開催については、県ウォーキング協会、市ウォーキング協会、（一社）盛岡市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（以下「もりスポネット」という。）とともに「もりおか健康ウォーク」を開催しました。また、令和4年度（2022年度）にモリウォーカーをリリースし、ウォーキングを中心とした健康づくりを促進する取組を進めました。
- ▶各種健康教室の開催は、もりスポネットと連携し、スポーツに親しむ機会の提供を行いました。

〔評価・課題〕

- ・ウォーキングは、時間や場所の制約なく取り組めるスポーツであることから、モリウォーカーを活用し、いつでも、どこでも、いつまでも健康づくりに取り組める機会の提供を図ります。

施策2 市民ニーズに即したスポーツ施設の管理運営

- ▶施設ニーズの把握については、定期的にスポーツ施設の利用者アンケートを実施しました。
- ▶開館期間や時間の延長等については、利用者の要望にできるだけ応えるよう調整を行い、市民が使いやすい施設運営に努めました。

〔評価・課題〕

- ・ニーズに即した施設運営は、施設の利用率向上や効率化の上で、大変重要となることから、今後も指定管理者と連携し、スポーツ施設の効率的な運営管理について検討を行う必要があります。

施策3 学校体育施設開放事業の促進

- ▶学校体育施設開放運営委員会への支援については、運営費の補助を実施しました。今後、中学生の休日の運動部活動の地域移行の状況を注視しながら、運営委員会のあり方等も検討を行う必要があります。
- ▶夜間照明施設の維持管理については、不点灯率の調査を行い、不点灯率が30%超の場合に修繕を行っているほか、計画的にLED化を進めています。

〔評価・課題〕

- ・学校体育施設の開放事業は、多くの市民に利用されていることから、今後も継続して実施していく必要がある一方で、使用団体の固定化や複数の施設を重複して予約するなどの事例もあることから、問題の解消について検討する必要があります。
- ・夜間照明施設の中には、器材の一部に低濃度PCB*を使用した施設があることから、令和8年度（2026年度）までに計画的に交換を行う必要があります。また、電球のLED化も順次進めていく必要がありますが、多額の費用が掛かることが大きな課題となっています。

* 用語解説 P52 参照

（カ）情報共有によるスポーツの普及促進

施策1 「する」、「観る」、「支える（育てる）」スポーツの情報発信

- ▶市ホームページを活用したサークル・クラブ等の活動の情報提供については、市主催のイベントや市スポーツ協会等の教室の情報は掲載していますが、一般のサークル・クラブ等の情報提供には至りませんでした。
- ▶スポーツ指導者の情報提供については、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブに関する情報発信を行ったほか、県内指導者の情報を発信している県広域スポーツセンターのホームページへのリンクを市ホームページに設定し、情報の提供に努めました。
- ▶市ホームページを活用した各種大会等の運営スタッフの募集については、盛岡広域スポーツコミッション*（以下「コミッション」という。）と連携し、プロスポーツやスポーツイベントのボランティアに関する情報発信を行いました。
- ▶コミッションへの情報提供については、イベント開催の情報を提供し、コミッションのホームページやスポーツパル*会員へのメールマガジンに掲載するなど連携を図りました。

〔評価・課題〕

- ・市民がスポーツ教室等の情報に気軽にアクセスできるよう、市ホームページやコミッションのホームページ等の活用継続して取り組む必要があります。

施策2 情報システムの利便性の向上

- ▶スポーツ施設の予約システムについては、太田テニスコートを除き、空き状況の確認はできるが予約はできない、または、システム自体がない状況となっています。県は、文化施設・スポーツ施設予約システムを導入する予定としており、市営施設への拡張が可能か、情報収集と情報共有を進める必要があります。

〔評価・課題〕

- ・スポーツ施設の情報システムの利便性の向上は、学校体育施設開放事業も含め、引き続き取り組む必要があり、システム構築に向けて検討する必要があります。

イ スポーツ施設の整備充実

（ア）計画的なスポーツ施設の整備

施策1 スポーツ施設の適正配置方針の見直し

〔評価・課題〕

- ・スポーツ施設の整備については、盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画（以下「アセット計画」という。）に基づいたスポーツ施設の長寿命化工事を着実に進めました。
- ・適正配置方針は、平成26年度（2014年度）から令和5年度（2023年度）までの期間であることから、令和6年度（2024年度）以降の方針について検討する必要があります。

* 用語解説 P51 参照

施策2 スポーツ振興基金の拡充

〔評価・課題〕

- ・ふるさと納税などによりスポーツ振興基金の拡充を行いました。今後も基金の拡充は継続して行う必要があります。

(イ) 新たな施設の整備

施策1 都南東部地区へのスポーツ施設の整備

〔評価・課題〕

- ・都南東部体育館（仮称）については、令和3年度（2021年度）に用地取得と地質調査、令和6年度（2024年度）に建設工事着工、令和7年度（2025年度）の供用開始を目指し整備を進めます。

(ウ) 既存施設の整備改修

施策1 市営野球場（盛岡南公園野球場）の整備

〔評価・課題〕

- ・いわて盛岡ボールパークは、令和5年（2023年）4月1日の供用開始に向け、整備を進めています。単なる野球場ではなく、野球をはじめとしたスポーツやスポーツ以外でも多目的に利用できる「ボールパーク」として、賑わいを創出することを目指しています。また、ネーミングライツを活用し、将来の改修費用等に充てることとしており、令和4年（2022年）10月に「きたぎんボールパーク」として契約を締結しました。

施策2 河川区域に有する野球場適正配置方針の検討

〔評価・課題〕

- ・河川区域にある野球場の移転には広い土地の確保が必要であるため、具体的な検討には至っていません。今後も代替候補地の情報収集を行います。

(I) ユニバーサルデザインの推進

施策1 既存施設のバリアフリー化の推進

〔評価・課題〕

- ・スポーツ施設においては、長寿命化工事が予定されている施設を除き、全てのスポーツ施設のトイレの洋式化を行いました。また、武道館大規模改修において、トイレの洋式化のほか、スロープや階段昇降機を設置し、バリアフリー化を行いました。今後も既存施設の長寿命化工事に当たっては、バリアフリー化を継続して行う必要があります。

施策2 ユニバーサルデザインの推進

〔評価・課題〕

- ・いわて盛岡ボールパークの整備に当たり、場内掲示等においてユニバーサルデザインを取り入れました。今後の施設整備・改修においても継続して取り入れる必要があります。

（オ）盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画の推進

施策1 都南・飯岡体育館の整備方針の策定

〔評価・課題〕

- ・各地域からの要望を踏まえ、集約化体育館の建設場所や規模の検討を行っています。

施策2 武道館大規模改修の実施

〔評価・課題〕

- ・平成30年度（2018年度）に大規模改修工事を実施しました。

施策3 総合プール大規模な修繕の実施

〔評価・課題〕

- ・令和2年度（2020年度）に大規模な修繕を実施しました。



【左上から時計回りに】都南体育館（S47（1972）設置）、飯岡体育館（S49（1974）設置）、総合プール（H11（1999）設置）、武道館（S56（1981）設置）

基本的施策2 スポーツを「支える（育てる）」環境づくり

スポーツ団体等と連携して各種事業を展開し、市、市スポーツ協会、競技団体、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等の役割を明確にして、市民のスポーツ活動がより活発に展開されるようスポーツ団体等との連携を強化し、スポーツを支える環境づくりを進めました。また、プロチームやプロチームを支援する市民との連携により、スポーツを通じた元気なまちづくりを進めています。

成果指標

指標：市が共催・後援する事業の数

目指す方向	平成23年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↗	170 事業	222 事業	201 事業	117 事業	175 事業	270 事業	未達

指標：総合型地域スポーツクラブの数*

目指す方向	平成23年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↗	4 団体	7 団体	7 団体	7 団体	8 団体	24 団体	未達

指標：プロチーム等のチーム会員数*

目指す方向	区分	平成23年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↗	グループ ジャ	1,232 人	370 人	112 人	212 人	656 人	20,000 人	未達
	ビッグ ブルズ		415 人	769 人	441 人	598 人		未達
合計		—	785 人	881 人	653 人	1,254 人	—	

評価

- ・市が共催する事業は、平成30年度（2018年度）まで着実に増加してきましたが、新型コロナの影響により、令和2年度（2020年度）からは大きく減少している状況です。「新しい生活様式」の視点でさまざまな事業を展開し、令和3年度（2021年度）には増加に転じましたが、目標達成は難しい状況です。
- ・総合型地域スポーツクラブについては、当初、国の方針に基づき中学校区に1団体という目標を設定し、クラブの増加を目指しましたが、現在は国の方針がクラブの量から質の充実に視点が見直されています。
- ・プロスポーツの会員数は各年度で変動があり、依然として目標値には達していません。今後もプロスポーツチームを応援する機運を醸成する取組を続ける必要があります。

* 用語解説 P52 参照

課題

- ・令和4年度（2022年度）からは総合型地域スポーツクラブの登録認証制度が開始されており、今後さらにクラブの役割と認知度を高める取組が必要となります。
- ・中学校の運動部活動の地域移行の検討が必要になります。この受け皿としては、市スポーツ協会をはじめ、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等が想定されます。
- ・プロスポーツは、試合会場等施設の要求水準が上がっており、これらに対応していく必要があります。今後さらに市民に親しまれ、チームと市民が感動を共有する関係性を築く必要があります。

ア スポーツ団体等との連携強化

(7) (公財) 盛岡市スポーツ協会との連携強化

施策1 事業運営に対する支援

- ▶市スポーツ協会運営事業、国民体育大会選手派遣事業への助成については、市スポーツ協会に対し事業費補助金等を交付し、市民のスポーツ活動の推進を図りました。

〔評価・課題〕

- ・市スポーツ協会は、スポーツ統括団体としての役割を果たしており、市民のスポーツ推進のために連携して各種事業に取り組んでいく必要があることから、今後も支援を継続する必要があります。

施策2 スポーツ大会等の協働推進

〔評価・課題〕

- ・市スポーツ協会と連携し、市民体育大会等の開催や合宿の受け入れを協働で行いました。各種大会やイベントの開催、合宿の受け入れは、市単独で実施することができないため、今後も市スポーツ協会と協働で取り組む必要があります。

施策3 スポーツ指導者の確保・育成等

- ▶スポーツ少年団の指導に当たる指導者を育成するため、市スポーツ協会に補助金を交付し、講習会を開催しました。

〔評価・課題〕

- ・スポーツ指導者の育成については、今後、中学校の運動部活動の地域移行が始まることから、より一層力を入れて取り組む必要があります。
- ・スポーツインテグリティ*の推進のためアスリート、指導者に対する講習等を行う必要があります。

(イ) 競技団体等との連携強化

施策1 スポーツ推進事業への共催・後援

〔評価・課題〕

- ・各競技団体等の共催・後援は、今後も継続して取り組む必要があります。

*用語解説 P52 参照

施策2 スポーツ推進審議会による計画の進行管理

〔評価・課題〕

- ・審議会を開催し、スポーツ推進計画の進行管理を行いました。また、計画の確実な実施と次期計画に向けた取組として、令和3年度（2021年度）～4年度（2022年度）を対象とした「アクションプラン」を策定し、市民の健康づくりのため「ウォーキング」に重点をおいた取組等を進めました。

施策3 スポーツ指導者の資質向上等

- ▶県が開催する講習会等の開催周知については、市ホームページから県広域スポーツセンターのホームページにリンクを設定することで周知を行いました。
- ▶スポーツ指導者リストの作成については、市ホームページから県広域スポーツセンターのホームページにリンクを設定したほか、市中央公民館の「学びの循環推進事業」において一般コースのスポーツ・健康分野及び専門コースの指導者リストを作成しました。

〔評価・課題〕

- ・競技団体が実施する講習会等は、競技団体内で周知を図るのが最善と考えます。スポーツ指導者リストの作成については、中学校の運動部活動の地域移行もあることから、市スポーツ協会や競技団体等と協力しながら取り組む必要があります。

（ウ）スポーツ推進委員との連携強化

施策1 協議会運営に対する支援

- ▶スポーツ推進委員協議会に対し、スポーツ基本法第34条に基づき事業費補助金を交付しました。

〔評価・課題〕

- ・スポーツ推進委員は、地域におけるスポーツ活動の指導や運営に携わっていることから、その活動を推進するため、今後も継続して補助を行っていく必要があります。

施策2 市民への周知拡大

- ▶機関誌「DASH!! ENJOY!!」を年1回発行し、市の施設や社会福祉施設等に配架することで普段の活動等の周知を行い、スポーツ推進委員の周知拡大を図りました。
- ▶市ホームページにおいて、スポーツ推進委員の役割や活動を紹介するページを作成し、周知を図りました。

〔評価・課題〕

- ・スポーツ推進委員は、地域スポーツに最も近い立場でスポーツ活動の指導や運営を行っていますので、今後も、スポーツ推進委員の役割等の周知を図る必要があります。

施策3 スポーツ推進委員の資質向上

- ▶新任委員を中心に、地域のニーズが高いボッチャの研修等を、スポーツ推進委員協議会主催で開催し、スポーツ推進委員の資質向上を図りました。

- ▶ 県が実施する研修や講習の情報提供を行い、参加の促進を図りました。
- ▶ ラジオ体操講習会を実施し、スポーツ推進委員の資質向上を図りました。

〔評価・課題〕

- ・ スポーツ推進委員は、地域スポーツに最も近い立場でスポーツ活動の指導や運営を行っていますので、今後も研修会等を実施し資質向上を図る必要があります。

施策4 スポーツ推進委員の委嘱の見直し

- ▶ スポーツ推進委員は、各地区からの推薦と公募により選任していますが、具体的な委員数の見直しは行いませんでした。

〔評価・課題〕

- ・ スポーツ推進委員の選任については、地区によっては推薦に苦慮している地区もあることから、地区ごとの委員数の見直しや公募方法について、各地区の状況を把握しながら検討する必要があります。

Ⅰ (I) 総合型地域スポーツクラブ等との連携強化**施策1 市民への周知拡大**

- ▶ 市ホームページに、総合型地域スポーツクラブ市内8クラブを紹介するページを作成し、それぞれのスポーツクラブの活動にアクセスできる環境を整えました。

〔評価・課題〕

- ・ 総合型地域スポーツクラブは、令和4年度（2022年度）から登録認証制度が始まりました。今後、さらに認知度を高めるために周知を進めていく必要があります。

施策2 スポーツ推進事業への共催・後援

〔評価・課題〕

- ・ 総合型地域スポーツクラブが実施しているスポーツ活動への共催・後援を実施しており、今後も継続して共催・後援し、活動しやすい環境を整えていく必要があります。

施策3 クラブの設立や事業運営への支援

- ▶ もりスポネットと連携し、健康づくり教室の開催を委託したほか、市内8クラブの運営や活動支援について情報共有を図りました。
- ▶ もりスポネットと市が連携して、総合型地域スポーツクラブの設立や運営支援を行いました。
- ▶ もりスポネットに健康づくり教室の開催を委託したほか、ホームページ等を通じて体力向上及び健康づくりのきっかけとなる情報発信を行いました。

〔評価・課題〕

- ・ 総合型地域スポーツクラブの新規創設や既存クラブの事業拡充、組織基盤強化に向けて、総合型地域スポーツクラブが活動しやすい環境を整えるため、市や各種スポーツ団体とのさらなる連携が必要です。

（オ）障がい者団体との連携強化

施策1 情報提供の促進 及び 施策2 スポーツ大会等への協力

- ▶市ホームページで、市障がい者スポーツ大会の情報提供を行いました。

施策3 （一社）岩手県障がい者スポーツ協会との連携

- ▶市ホームページにおいて、県障がい者スポーツ協会が共催し、市スポーツ協会が実施する障がい者スポーツの体験会等の情報提供を行いました。

〔評価・課題〕

- ・障がい者のスポーツ実施については、大会等の参加者が減少傾向にあるとの統計結果もあり、普及促進を図る必要があることから、連携を強化していく必要があります。

（カ）企業、大学等との連携

施策1 大学の研究成果や人材等の活用

- ▶大学や民間企業から講師を招聘し、スポーツ医・科学勉強会を年2回開催しました。
- ▶スポーツ教室等の指導者として、大学や民間企業から講師を招聘しました。
- ▶いわて盛岡シティマラソンにおいてボランティア派遣等の依頼を行い、多くの協力をいただきました。

〔評価・課題〕

- ・指導者等の育成において、専門的な知識を学ぶことは重要であることから、今後も継続する必要があります。また、CSR*活動の一環として、今後もスポーツイベントに協力いただけるよう働きかけを行う必要があります。

施策2 企業への大会支援の要請

- ▶各大会における協賛支援の拡充については、各実行委員会において企業に対する要請を行ったほか、市内スポーツ施設へのチラシ配架やテレビ・ラジオ等で大会PRを実施するなど協賛支援の拡充を図りました。

〔評価・課題〕

- ・企業からの協賛支援は、拡充が難しくなっていることから、協賛に対するインセンティブの見直しなどを行いながら進める必要があります。

施策3 盛岡市立高等学校の部活動の推進

〔評価・課題〕

- ・学校教職員の配置等の課題があり、部の新規創設にはつながっていませんが、今後も継続して検討する必要があります。

* 用語解説 P52 参照

イ プロスポーツ等との連携

(ア) チーム力強化への支援

施策1 練習環境の確保・支援

- ▶ スポーツ施設の予約について、プロスポーツの利用に配慮するなど施設確保の支援を行い、プロスポーツ観戦等の機会拡大に努めました。

〔評価・課題〕

- ・ プロスポーツチームが、市のスポーツ施設を利用する場合の取組は、盛岡広域圏のスポーツ施設と連携しながら、引き続き支援をしていく必要があります。
- ・ プロスポーツチームが、所属リーグから求められている施設基準への対応について検討が必要です。

施策2 ホームゲームの開催支援

- ▶ 市ホームページにおいて、試合日程等の周知を行ったほか、コミッションと連携し、コミッションホームページ等でも周知を図りました。

〔評価・課題〕

- ・ 市のスポーツ施設でホームゲームを開催できるよう、また、観客数が増加するよう引き続き支援を行う必要があります。

(イ) 市民に愛されるチームづくりへの支援

施策1 地域活動等への参加促進

- ▶ スポーツをはじめとする地域活動等への参加促進については、もりおか子どもスポーツクラブに講師として選手を招聘したほか、盛岡さんさ踊りへの参加やブースの出店、モリウォーカーの周知等に協力いただきました。

〔評価・課題〕

- ・ 市民との触れ合いの機会を設けることで、認知度や愛着度が高まると考えられることから、今後も継続して行事や地域活動への参加について情報提供を行います。

施策2 広報活動による支援

- ▶ 市広報紙でチームの紹介やホームゲームに足を運んでもらうよう記事を掲載しました。また、市ホームページにおいて、試合日程等の周知を行ったほか、コミッションホームページ等でも周知を図りました。

〔評価・課題〕

- ・ プロスポーツチームを応援する機運を高める必要があることから、今後も市広報紙や市ホームページにおいて認知度の向上を図る必要があります。

施策3 市民による応援への支援

- ▶ 市ホームページにおいて、試合日程等の周知を行ったほか、コミッションホームページ等でも周知を図りました。

- ▶岩手ビッグブルズの盛岡市総合アリーナ開幕戦を「観戦料無料」とする際に協力するなどチームへの支援を行いました。

〔評価・課題〕

- ・令和3年度（2021年度）・4年度（2022年度）は、県の新型コロナ対策市町村総合支援事業費補助金を活用し、ホームゲーム観戦者に市特産品を贈呈するなど、市民がプロスポーツに触れる機会の促進を図りました。今後も市広報紙や市ホームページを活用したプロスポーツチームを応援する機運醸成の取組を継続して実施するとともに、市民やチームにとって、どのような支援が効果的であるか検討していきます。

基本的施策3 2016「希望郷いわて国体」「希望郷いわて大会」の遺産の継承

「2016 希望郷いわて国体・いわて大会」のレガシーを発展させ、確実に未来の世代に引き継いでいくため、市は盛岡広域市町と連携しながら、スポーツツーリズム等の取組を通じた盛岡広域圏の魅力の発信と賑わいの創出を目指しました。特にRWC2019 や東京2020、2022 北京オリンピック・パラリンピックを絶好の機会ととらえ、公認チームキャンプの受け入れやホストタウン*としての事前キャンプの受け入れ等、関係機関・団体と連携・協力して取り組みました。

成果指標

指標：スポーツ合宿・大会の受入数

目指す方向	平成23年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↗	—	77件	102件	55件	24件	70件	未達

指標：スポーツパルの登録者数

目指す方向	平成28年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↗	400人	1,028人	1,952人	2,349人	2,654人	10,000人	未達

評価

- ・スポーツ合宿・大会の受入数については、平成30年度（2018年度）と令和元年度（2019年度）は、オリンピック等を目前に控えていたこともあり、目標を達成できるペースでしたが、令和2年度（2020年度）・3年度（2021年度）は、新型コロナの影響により激減したことから、目標の達成は難しい状況です。
- ・スポーツパルの登録者数については、平成30年度からは盛岡広域圏8市町にも対象を広げたことから、着実に増加していますが、増加幅が鈍化していることから、目標の達成は難しい状況です。

*用語解説 P52 参照

課題

- ・広域圏の各スポーツ施設で、利用者・利用団体にとって必要な設備を補完することや、広域圏全体のスケールメリットを生かしたスポーツ大会・合宿誘致を進める等、広域圏の連携を強化する必要があります。
- ・盛岡広域圏の強みを生かし、スポーツツーリズムをきっかけとした交流人口の増加、魅力発信の取組を続けていく必要があるほか、スポーツパルのコンテンツの充実を図り、登録者の増加を図る必要があります。

ア スポーツによる交流人口の拡大

(ア) スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致

施策1 競技団体、大学、社会人実業団チームへの誘致活動

- ▶令和4年度（2022年度）から市内のスポーツ施設を使用したスポーツ合宿に対する助成制度を開始し、誘致活動を推進したほか、コミッションホームページを活用して制度の周知を行いました。

〔評価・課題〕

- ・合宿助成制度については、制度の周知を進めるほか、より利用しやすい制度の見直しを進めます。
- ・令和5年（2023年）4月に供用開始する、いわて盛岡ボールパークを起爆剤として、盛岡広域圏で連携し、大学・社会人チーム等の合宿誘致を推進する必要があります。

施策2 大会主催者への運営支援

- ▶全国大会等の大会主催者への運営支援については、一定規模のスポーツ大会が助成となるMICE*助成金の利用促進に努めました。

〔評価・課題〕

- ・施設使用料の減免は、施設の運営管理への影響もあり、慎重に検討する必要があります。

(イ) 盛岡広域スポーツコミッションを通じた取組及び岩手県との連携

施策1 広域資源を活かしたスポーツイベントの検討

- ▶いわて盛岡ボールパークの運営事業者に参画している企業が、盛岡広域圏の野球場を活用した大会・合宿誘致を検討していることから、コミッションと連携し、実現に向けて取り組みます。
- ▶既存のスポーツイベントのコラボレーションは、実現に至りませんでした。

〔評価・課題〕

- ・盛岡広域圏にあるスポーツ施設を活用することで効果的な誘致を行えることから、引き続きコミッションと連携し、大会・合宿誘致を進めていく必要があります。

* 用語解説 P52 参照

施策2 スポーツ情報の周知・広報

- ▶ コミッションホームページには、盛岡広域圏のスポーツ情報が集約されていることから、地域おこし協力隊を活用して、各市町のイベントを取材し、参加者の声などイベントの魅力が伝わる情報発信を行いました。

〔評価・課題〕

- ・ コミッションホームページは、スポーツ情報に特化したサイトであることから、今後情報発信のツールとして連携します。

イ 東京2020などメガスポーツイベントへの取組

（ア）東京2020ホストタウン事業の推進

施策1 東京2020事前キャンプ等の誘致・受け入れ

- ▶ 本市がカナダ国及びマリ共和国のホストタウンとして登録されたことから、その後の誘致活動によってカナダの水球男女、7人制ラグビー男女、スポーツクライミング、マリ共和国の柔道が事前キャンプを実施することとなりました。水球男子と7人制ラグビー、柔道については、チームの都合により実現できなかったものの、水球女子とスポーツクライミングについては、事前キャンプが実現しました。
- ▶ 盛岡南公園球技場のロッカールームの改修、総合プール設備の整備などを実施しました。

〔評価・課題〕

- ・ 本市は、事前キャンプを実施できた数少ない自治体であり、2016希望郷いわて国体・いわて大会のレガシーが活かされた結果といえます。今後もトップチームの受け入れのノウハウを生かし、大会や合宿の誘致活動を積極的に進める必要があります。

施策2 ホストタウン交流イベントの実施

- ▶ オリンピックデーフェスタを2回開催したほか、メダルプロジェクト、事前キャンプによる交流など、機会を捉え、子どもたちを中心とした交流イベントを開催しました。令和3年度（2021年度）は、新型コロナの影響で参加者を限定した交流イベントとなりました。
- ▶ パブリックビューイングは、平昌2018オリンピックのカーリング女子予選「日本対カナダ」を盛岡市総合アリーナで実施しました。

〔評価・課題〕

- ・ 新型コロナの影響でイベントの実施が難しい中、工夫を凝らし、規模を縮小して実施することができました。
- ・ 新型コロナ対策が進んできたことから、今後は感染予防対策を施した上でイベントの開催ができるものと思われます。

施策3 ホストタウン周知啓発

- ▶ 歓迎のぼり旗やボールペン、缶バッジを作り、各種イベント等で配布して周知を行ったほか、市内小学生が制作した千羽鶴などでおもてなしを行いました。千羽鶴は、ホストタウン相手国がSNS*で紹介するなど、取組の周知が図られました。

〔評価・課題〕

- ・ホストタウンの周知啓発活動に、子どもたちが関わることで東京2020を身近に感じてもらおうとともに、国際交流への関心につなげました。

（イ）オリンピック選手の輩出

施策1 エイト・オリンピックズ・プロジェクトとの連携・協力

- ▶ コミッションと連携し、盛岡広域圏8市町ゆかりの選手が大会で入賞した際には祝電を送るなど、オリンピックの輩出を目指した機運醸成を行いました。
- ▶ コミッションにおいて、地域スポーツ雑誌やラジオ番組、ホームページ等を活用し、地元選手の活躍を周知したことで選手を応援する機運醸成が図られました。

〔評価・課題〕

- ・盛岡広域圏で連携することで、施設利用や練習環境整備にスケールメリットが生まれることから、今後もコミッションを通じて連携を継続します。

施策2 応援体制の構築

- ▶ コミッションと連携し、盛岡広域圏8市町ゆかりの選手について地域スポーツ雑誌やラジオ番組、市ホームページ等を活用して活躍の周知を図りました。
- ▶ パブリックビューイングは、平昌2018オリンピックのカーリング女子予選「日本対カナダ」を盛岡市総合アリーナで実施したほか、平昌2018パラリンピックのバイアスロン男子・女子を県教育委員会と県障がい者スポーツ協会との共催で、サンセール盛岡で実施しました。

〔評価・課題〕

- ・企業版ふるさと納税の活用などを、今後検討する必要があります。
- ・新型コロナ対策が進んできたことから、今後は感染予防対策を施した上でイベントの開催を積極的に検討する必要があります。

（ウ）ラグビーワールドカップ2019™日本大会（RWC2019）への取組

施策1 RWC2019 公認チームキャンプ等の受け入れ

- ▶ RWC2019の公認チームキャンプ地として、ナミビア代表チームの受け入れを行いました。また、受け入れに伴い、盛岡南公園球技場のラグビーゴールの更新やパワーラックの整備等を行いました。

* 用語解説 P52 参照

〔評価・課題〕

- ・2016 希望郷いわて国体・いわて大会のレガシーが活かされた結果といえます。今後もトップチームの受け入れのノウハウを生かし、大会や合宿の誘致活動を積極的に進める必要があります。

施策2 RWC2019 開催に向けた関係機関との連携・協力

- ▶RWC2019 の機運醸成として、本大会前のパシフィックネーションズカップのパブリックビューイングの実施や市庁舎への横断幕の掲示、市内商店街へのぼり旗の設置等による機運醸成を行いました。また、大会期間中は、県と連携し日本代表戦等のパブリックビューイング（7回で3,220人が観戦）を実施しました。

〔評価・課題〕

- ・2016 年希望郷いわて国体・いわて大会のレガシーが活かされた結果といえます。今後も県や関係機関・団体と連携して機運醸成を積極的に進める必要があります。

Ⅱ (E) 2022 北京オリンピック・パラリンピックへの取組

施策1 2022 北京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ等の誘致・受け入れ

- ▶新型コロナの影響により、誘致活動は実施しませんでした。

施策2 2022 北京オリンピック・パラリンピック交流イベントの実施

- ▶新型コロナの影響により、交流イベントやパブリックビューイングは実施しませんでした。

ウ 広域的な地域スポーツ推進及び岩手県との連携

Ⅱ (F) 盛岡広域スポーツツーリズムの牽引

施策1 盛岡広域スポーツコミッション事務局の運営

- ▶コミッションの事務局として、盛岡広域圏の各市町が行うスポーツツーリズムの支援を実施しました。

〔評価・課題〕

- ・スポーツツーリズムの取組については、今後も事務局が盛岡広域圏の連携を牽引し、スケールメリットを生かした取組を進める必要があります。

Ⅱ (I) スポーツパル事業への取組

施策1 スポーツパル事業の広域化の推進

- ▶市のスポーツパル事業を、コミッションと連携することで対象施設を盛岡広域圏の各市町にも拡大し、広域圏の住民も会員としたことから、会員数が増加しました。

〔評価・課題〕

- ・市の事業を広域に拡大することで、事業の効果を高めることができました。今後、県営施設も対象施設とすることなど、更なる拡充を検討する必要があります。

施策2 会員募集活動の強化・会員活動機会の拡大

- ▶市内のスポーツ店に協賛を依頼し、スポーツ用品の割引券等を会員特典に加えるなど、スポーツパル制度の魅力向上を図りました。
- ▶コミッションと連携し、会員に対してスポーツイベントやプロスポーツチームのホームゲームにおけるボランティア情報を提供しました。
- ▶いわて盛岡シティマラソンや東京2020 聖火リレー等のボランティア募集と連携し、制度の周知を図りました。
- ▶会員交流会をスポーツ推進委員協議会の研修会と併せて実施したほか、ボランティア講習会を実施しました。
- ▶コミッションと連携し、コミッションホームページやメールマガジンを活用して関連イベントの周知を行いました。

〔評価・課題〕

- ・今後も活動機会の拡大を図るほか、ボランティア研修会を開催し、ボランティア活動の充実を図ります。

施策3 スポーツ情報の発信

- ▶スポーツパル会員に対し、毎月2回（1日、15日）盛岡広域圏のスポーツ情報等を配信したほか、コミッションホームページで、広域圏のスポーツ情報に特化した情報発信を行いました。

〔評価・課題〕

- ・コミッションホームページについては、予定アクセス数を超えた結果が得られており、今後も提供する情報を充実する取組が必要です。メールマガジンについても、定期的な配信を今後も継続して実施する必要があります。

（ウ）スポーツ施設の広域化への取組

施策1 適正配置に向けた岩手県や盛岡広域スポーツコミッションとの連携

- ▶コミッションが作成した「盛岡広域スポーツ施設のストック適正化指針」に情報を集約した結果、県営及び各市町営スポーツ施設の情報の共有が図られました。

〔評価・課題〕

- ・広域圏内にあるスポーツ施設の情報共有は図られたことから、今後施設を連携した活用方法や広域による合宿誘致、広域全体を意識した施設整備を目指す必要があります。

盛岡市スポーツ推進計画「アクションプラン」

前計画の基本的施策「スポーツを『する』環境づくり」の「ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進」に戦略的に取り組む具体策として、令和3年（2021年）12月にアクションプランを策定しました。「ウォーキングを核とした健康づくり施策の推進」など、アクションプランに盛り込まれた具体的な取組については、新しい計画において、引き継いで実施していくこととします。